

# マルバノキ保護推進指針

## 1 種の概要等

マルバノキ (被子植物門双子葉類離弁花群マンサク科)

*Disanthus cercidifolius* Maxim.

岡山県版レッドデータブック 2009 絶滅危惧 I 類

環境省第4次レッドリストRDB 該当なし

### (1) 生育情報

通常低木で、まれに亜高木程度になる夏緑広葉樹。落葉前の10～11月頃、紅葉しながら花が咲くため、大変風流である。花は暗紅紫色。葉はハナズオウに似て円心形で全縁。

### (2) 分布状況

中部地方以西の本州と四国に分布。中国地方では広島・岡山両県内に産地局限。広島県の生育地はアカマツ林が卓越する吉備高原面の谷川沿い。県内の自生地は北部の山地に1カ所で、中部での生育情報は植栽の可能性あり。栽培もされている。

### (3) 存続を脅かす要因

業者・マニア採取、林相変化、その他(森林利用)

### (4) 指定理由等

#### ①指定理由

本種の現在確認されている県内の自生地は非常に局所的である。

過去においてしばしば盗掘が見られ、この地域の個体が失われれば県内の自生地における本種は絶滅する。

園芸採取(花材用採取)、森林伐採等の人為的な影響により、本種の存続が脅かされていることから、特に保護を図る必要がある。

#### ②指定年月日

平成16年7月16日

参考文献：岡山県版レッドデータブック2009植物編

## 2 保護の目標

本種の本県内での生育地は植林地内であり、植林地内の林床、林縁及び林道の縁に生育している。この植林地内では下刈り、枝打ち、間伐等人為的な管理が施されているが、この環境下で安定的に存続できる状態になることを目標とする。

## 3 保護の推進に関する方針

### (1) 生育状況等の把握・モニタリング

- ・本種は低木であり樹高は高くない。また萌芽傾向が強く、幹は倒伏と再生を繰り返していると考えられる。そのため本種が持続的に生育するには、自然に攪乱が生じるような立地が望ましいと考えられるが、個体の生育状況、生育環境等に関する調査については、継続実施し情報の蓄積を行う。
  - ・本種の生物学的特性の解明、本種を取り巻く生態系の構造の解明、個体群の維持に影響を及ぼすおそれのある要因の把握のための調査、研究を進める。
- (2) 生育地における生育環境の維持・改善
- ・本種の生育地は植林地内であり、そのため下刈り、枝打ち、間伐等が行われており、下刈りの際には本種も刈られていることがある。このことは一時的に本種の生育に悪影響を及ぼすことがあるが、長期的には本種に必要な日照が確保されることになり、再生が可能となっている。このため生態学的特性を踏まえ、生育環境の維持・改善の効果的な対応策を検討する。
  - ・生育地及びその周辺地域での土地利用や事業活動の実施に際し、生育に必要な環境条件を確保するための配慮が払われるよう努める。
- (3) 人工繁殖及び個体の再導入
- ・必要に応じて人工繁殖技術の確立や種子の保存に取り組み、人工繁殖を行う。
  - ・必要に応じて適切な方法での個体の再導入による個体数の増加を図る。
- (4) 生育地における採取等の防止
- ・本種は秋の茶花材用としての採取圧が高く、以前には大がかりな採取も見られた経緯がある。
- また、その生育地も限定されているため、採取や生育地への不用意な立入等個体群の維持に影響を及ぼすおそれのある行為を防止するため、生育地（保護推進区）における指定希少野生動植物保護巡視員による監視等を行う。
- (5) 普及啓発の推進
- ・保護の必要性、保護に対する取り組みの実施状況等に関する普及啓発を推進し、本種の保護に関する配慮と協力を呼びかける。
  - ・無計画な持ち込み等による遺伝的攪乱の防止に努める。
  - ・本種の生育が植林地での下刈り、間伐、枝打ち等の人為的活動によって維持されており、人と自然環境の関わりを示す自然環境学習の場や自然保護啓発の場としての活用を図る。
  - ・地域の自主的な保護活動の展開が図られるように努める。

#### 4 保護の推進に関する重要事項

- (1) 生育地の維持管理
- ・現在実施されている管理主体による維持管理（立入規制、植林地の管理）を当面継続するよう努める。
- (2) 効果的な事業の推進のための連携の確保
- ・本種の生育地を管理する管理主体、関係行政機関、専門的な立場から必要な啓発・調査・助言等を行う希少野生動植物保護専門員、生育地を巡回しその採取を防止する指定希少野生動植物保護巡視員、森林組合、地域住民等との連携を

図る。